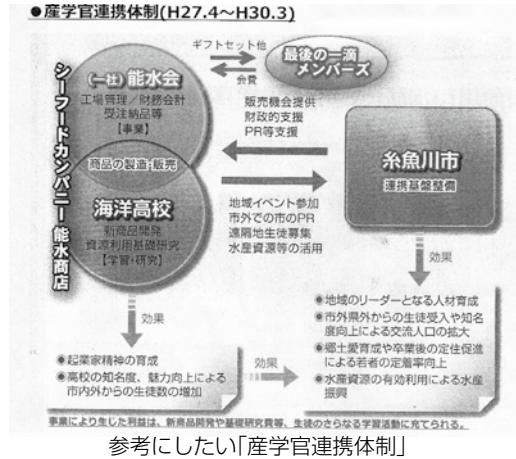


公立高校を核に、地域を支える人材を育てる

糸魚川市産業部農林水産課産学官推進企画幹 講師 久保田 郁夫氏

糸魚川市・小谷村・白馬村
議会議員連絡協議会 8月10日



白馬高校同様、定員割れが続く苦しい時期を経験した新潟県立海洋高等学校。その存在を全国的に発信するきっかけとなったのは「シーフードカンパニー能水商店」だ。当時の教諭と生徒が中心となり、採卵採精後にはほとんど廃棄されてきたサケを「何とかしよう！」としたことから始まった。

2007年には「もう君サーモン」を、また「最後の一滴」という魚醤も、サケの1

生を最後まで大切にしたいとの思いを込めて開発した。

昨年まで同校の校長であった久保田氏は、来年度からの公立高校を核に地域を支えていく、文部科学省の人材育成モデル事業に注目。「財政や人員面で、国の支援に頼らず、自発的な取り組みを維持できるかが問われるだろう。そしてそのカギとなるのが議会だ」と議会への期待を述べていた。

歴史からひも解く、砂防事業と私たちの生活

長野県姫川砂防事務所長 講師 木村 智行氏

白馬・小谷議員研修懇談会 9月27日



「目からウロコ」の砂防の歴史を学ぶ

驚くことに「砂防」の歴史は江戸時代まで遡る。江戸時代後半は新田開発が進み食料生産が増加。それにより1600年から約1200年間に人口は約2.5倍にも増えていた。

肥料や燃料としての草肥を入会地に求めた江戸期の山では、草木がなくなり、表土が流れやすく、土砂の流出で下流の河床が上がるなどの水害が増した。そのため1600年後半には「土砂留奉行」なるものが制度化。

明治期に入ると、経済発展の基盤として船による物資輸送を重視。川から流れ込む土砂で水深が浅くなり、大型船が入れないなど、主要港での堆砂が問題となる。ピーク時には520人もの外国人技術者を、当時の大臣並みの給料で雇い、港湾のための治水に力を入れた。

流出土砂による水害や堆砂防止、浸食抑制が目的であった砂防事業だが、現在は自然災害から住民を守る事業になっている。

全国唯一の「肩関節治療専門機関」で研修

あづみ病院肩関節治療センター技師長 講師 高橋 友明氏

大北市町村議会議員研修会 10月3日



池田町考案の「のびのびゴム体操」で健康長寿へ

池田町で開催された議員研修会に、総勢60名程の各市町村議員と事務局員が参加した。研修内容は大北市町村に関連する内容であったが、池田町は高齢者の健康管理に力を入れており、地域医療連携に積極的に取り組んでいる、あづみ病院の肩関節治療と、池田町地域包括支援センターが考案した「のびのびゴム体操」について、座学だけではなく理学療法士の斉藤恵子さんの指導により、実際に体を動かして理解を深めた。

肩の痛みは年齢を重ねると多くの方が経験するため、参加者の多くは真剣な表情で講師の話に耳を傾けていたが、時には笑いがあふれ出す場面もあった。講師の説明も分かりやすいため、肩に不安を抱えている方は一度あづみ病院へ相談に訪れても良いと感じた。